

S4-3

銅欠乏による白血球減少の1例 —長期経管栄養患者における微量元素欠乏症—

自動車事故対策機構千葉療護センター 診療部 栄養科

○依知川 弥生、武田 真一、内野 福生、小瀧 勝、岡 信男

【背景・目的】銅欠乏症が、白血球減少や貧血などの血液学的異常の原因となりうることは文献的に知られている。我々は単位量あたり銅含有量の少ない経管栄養剤を長期使用した結果、白血球減少をきたし、その原因が銅欠乏によるものであることが疑われた1例を報告する。【対象・方法】重症頭部外傷後遺症患者25歳男性。受傷後5年4ヶ月、当院入院後1年10ヶ月経過。胃瘻からの経管栄養剤のみにて栄養を摂取。入院時より、ファイブレンYH (Cu 20 μ g/100ml) を使用。カロリー1100kcal/日にて摂取していたが、白血球減少が徐々に進行した。血液検査により、血清銅、セルロプラスミンが異常低値であった為、経管栄養剤を銅含有量の多いCZ-Hi (Cu 180 μ g/100ml) に変更し経過をみた。【結果】経管栄養剤変更直前では、白血球 $3.3 \times 10^3 / \mu$ l、血清銅13 μ g/dl、セルロプラスミン2.1mg/dlであったが、CZ-Hi使用1ヶ月後には、血清銅97 μ g/dl、セルロプラスミン27.1mg/dlと増加し、白血球も $8.2 \times 10^3 / \mu$ lと正常範囲になった。単位量あたり銅含有量の多い経管栄養剤に変更し、血清銅値が改善し、白血球数も正常化した。【結論】長期経管栄養管理を行う上で、必要カロリーが低い植物状態などの患者では銅など微量元素の補給量に配慮して経管栄養剤を選択する必要性がある。